

- 災害時に断水を起こさないように既存の水道インフラの整備を推進すると共に万が一の断水に対して、共助および自助を含めた備えの推進を図ることを提言する

## 「災害時確保水」の把握および備えの実現

### 1. 「災害時確保水」の定量的把握

- 状況変化を踏まえたタイムラインを勘案し、給水対象毎に下記を定量的に把握する（災害時の水のバランスシート）
  - 《災害時使用水量の把握》
    - ✓ 優先給水対象の設定（給水先のトリアージ）
    - ✓ 一人当たりの使用水量目安設定（水量原単位の設定）
  - 《災害時給水量の把握》
    - ✓ 応急給水量および応急給水方法（給水車等）の把握
    - ✓ 二次災害等に配慮した給水量および給水水源の把握
  - 《災害時不足水量の想定》
    - ✓ 水質（飲用水及び医療用水、非飲用水）別の不足水量を想定

### 2. 「災害時確保水」備えの実現

- （自治体）定量的な災害時の水のバランスシートの作成
- （小地域）自治会、コミュニティ、マンション組合等における給水水源の確保（貯水槽の耐震化、多様な水源の確保等）

## 「災害時確保水」備え活動の支援および周知

### 1. 「災害時確保水」の備え活動の支援

- （自治体向け）把握実施作業に対する人的支援および財政支援
- （小地域向け）多様な水源利用に関する運用検討および財政支援

### 2. 「災害時確保水」の周知

- 市区町村の国土強靱化地域計画及び地域防災計画への反映
- 周知に向けた行政の広報活動、小地域における啓発活動

## 5つの提言

1. 災害時の断水を防ぐための公助の様々な取り組みを堅持しつつ、並行して、地域の共助や自助による「災害時に確保すべき水（災害時確保水）」の実現を図る。

2. 災害時に水が不可欠な重要給水施設に対しては、水道施設や管路の耐震化などと並行し、公助の断水時に対処可能な、共助や自助による「災害時確保水」の実現を、優先的に図る。

3. 自治会や小学校区などの小さな地域単位で、「災害時確保水」の実現に向け、具体的かつ定量的に試算した表（災害時の水のバランスシート）の推進・定着を図る。

4. 「災害時確保水」の実現にあたり、二次的災害等に配慮したうえ、雨水、再生水、地下水を水源として利用することも視野に入れ、民間との連携や民間技術の活用を含め、推進を図る。

5. 「災害時確保水」を実現するため、手法・人材・財政・制度など、多岐にわたり実行の支援を行い、社会全体として経済合理性を有した共助や自助による備えの推進を図る。